平成２６年度子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業

体験活動スキルアップ研修会～チームビルディングのスキル UP～

平成２７年１月２４日（土），２５日（日）

１．事業の目的（趣旨・ねらい）

効果的なチームビルディングの方法を身に付けたい教職員や施設・団体関係者を対象に，指導技術や知識を向上する研修を実施することで，青少年の体験活動の拡充を図る。

２．事業の概要

（１）日程

平成２７年１月２４日（土），２５日（日）

日帰り連続２回の研修（宿泊可能）

（２）募集人員

２０名

子どもたちに体験活動を指導する方，特にチームビルディングに携わっている方

◇教職員（体育会系のクラブ顧問や学級担任を担当されている方 等）

◇体験活動指導者（スポーツクラブのコーチ 等）

◇施設職員・青少年団体関係者（特に，事業担当者やボランティアコーディネーター事業でグループを担当するボランティアリーダー 等）

（３）参加者

１８名　教職員１名　施設職員１２人　スポーツクラブ指導者２名　一般３名

（大阪２名　鳥取１名　島根２名　岡山１１名　広島１名　佐賀１名　）

（４）講師

２４日　国立吉備青少年自然の家　企画指導専門職

２５日　（株）プロジェクトアドベンチャージャパン　門田　卓史　氏

（５）企画・運営のポイント

◇研修の内容を「チームビルディング」にした。

多くの方々が関心をもっている「チームビルディング」を研修のテーマに掲げることで，青少年の体験活動の拡充を図れるようにした。

◇連続日帰り２回の日程にした。

宿泊型研修の場合，研修内容に興味があったとしても，宿泊することが困難なことから参加できない場合があるため，連続日帰り２回の研修とした。なお，希望者は宿泊可能とした。

◇スポーツ分野にも広報を拡大した。

これまで，当施設の指導者養成事業では，学校教員や施設職員を対象に広報を進め

てきたが，このたびはテーマを「チームビルディング」とすることで，スポーツ分野にも広報対象を拡大し，より多くの方に「体験学習」の効果を伝えることをねらった。

３．活動の内容等

（１）日程等

１/２４（土）		１/２５（日）	
時程	活　動	時程	活　動
９：３０	受付	６：４５	起床・洗顔・掃除
１０：００	開会式	７：４５	朝のつどい
１０：３０	実習①～入門～	８：００	朝食
１２：００	昼食	～以降は研修２日目のスケジュール～	
１３：００	実習②～体験～		
１６：３０	１日目終了	９：１５	受付
～朝食までは宿泊希望者のスケジュール～		９：３０	実習③～テーマ(1)～
		１２：００	昼食
１７：１５	夕べのつどい	１３：００	実習④～テーマ(2)～
１７：３０	夕食	１６：００	閉会式
１８：３０	情報交換会		
２０：３０	入浴		
２２：００	就寝		

（２）活動の状況

◇１日目

当施設企画指導専門職が講師を担い，緊張を解きほぐすゲームから始まり，コミュニケーションが必要な活動，協力が必要な活動と順に参加者自身が体験することで，「チームビルディング」の流れを実際に経験できるようにした。

◇２日目

プロジェクトアドベンチャージャパンから講師を招聘し，１日目の体験をふまえて，「チームとは何か」や，指導者として「チームビルディングに携わる際のポイント」をグループで学び合ったりする時間や，それぞれが疑問に感じていることについて考え合ったりする時間を設けた。

【チームビルディングの流れを実際に体験】

【施設内エレメントを活用した課題解決型の活動】

【「チーム」とは何かを参加者で考え合う】

４．成果・課題

（１）成果

◇冒険教育を生かしたチームビルディングの研修を展開する際に，スポーツクラブや吹奏楽などの指導を担当されている方を対象に実施していくことが，新たな対象の開拓につながり，青少年の体験活動の充実に繋げることができるという可能性を感じることができた。

　スポーツクラブのコーチや学校でクラブ活動の顧問をされている方を対象に広報に取り組んだ結果，スポーツクラブコーチの参加者が２名あったが，部活動の顧問の参加は無かった。今回，スポーツ関係者の参加者数としては，大きな成果は見られなかったが，スポーツクラブコーチの参加者からは「私にとって衝撃的な研修でした。また参加します。」との意見を頂いた。

◇日帰り連続２回の実施により，多くの方に参加いただくことができた。

　１８名の参加者のうち，５名は日帰りの参加者であった。

　宿泊が必要な研修として設定をしていれば，５名の方には参加いただくことはできなかったため，夜の研修時間が短くなるデメリットはあるものの，日帰り連続２回の研修スタイルは効果的と言える。

◇１日目は当施設の職員が講師を担当し，２日目にプロジェクトアドベンチャージャパンの講師を招聘した。

　これまでの同様の研修では，外部より招聘した講師に指導を依頼していたが，１日目の冒険教育の入門編となる部分を当施設職員が担当することで，参加者の当施設への信頼度を高めることができた。

◇「吉備の森冒険教育体験会」とつながりをもって実施できた。

　当施設の指導者養成事業として継続的に実施している「吉備の森冒険教育体験会」の参加者が，本研修会に２日目から参加できるようにすることで，学びの機会を提供できたとともに，スキルアップ研修会に初めて参加した方々とも交流することができ，今後，当施設で冒険教育を学び続ける指導者を増やすきっかけとなった。

（２）参加者の声

◇事業全体に対する満足度・・・１００％

{参加者自由記述}

・１日目はアクティビティの体験をとおし，「チーム」・「チームビルディング」についてモヤモヤしながら学んだ。２日目のディスカッションをとおして頭を使ったことで，なんとなくモヤモヤが晴れたので良かった。

・アクティビティの体験で感じた状況と，討議の中で考えることがお互いにリンクして理解を深めることができた。

・学び，気づきなどは，実践し続けることが大切なので，今後は実践した際の報告会や疑問・課題の共有・解決ができる機会があれば嬉しいです。

（３）今後の課題等

◇対象・実施時期・内容の検討

体験活動の指導者研修は，実施施設が単独で時期や内容を計画することが一般的である。

今後，多くの指導者に参加いただき，各施設が関われる場面での体験活動の充実を図るためにも，実施施設だけで計画するのではなく，近隣の公立施設や国立施設とも連携しながら「対象・実施時期・内容」を検討した方が，効果的な指導者養成になるものと考える。

研修内容についても単年度で計画するのではなく，各施設が実施する研修テーマを数年先まで計画して広報することで，参加者対象となる指導者も見通しをもって研修計画をたてることができるようになり，より多くの方が研修に参加できるようになると考える。

【グループで考えた指導者の心得〇箇条】

【講師による解説】

担当：企画指導専門職　渡邊　剛志